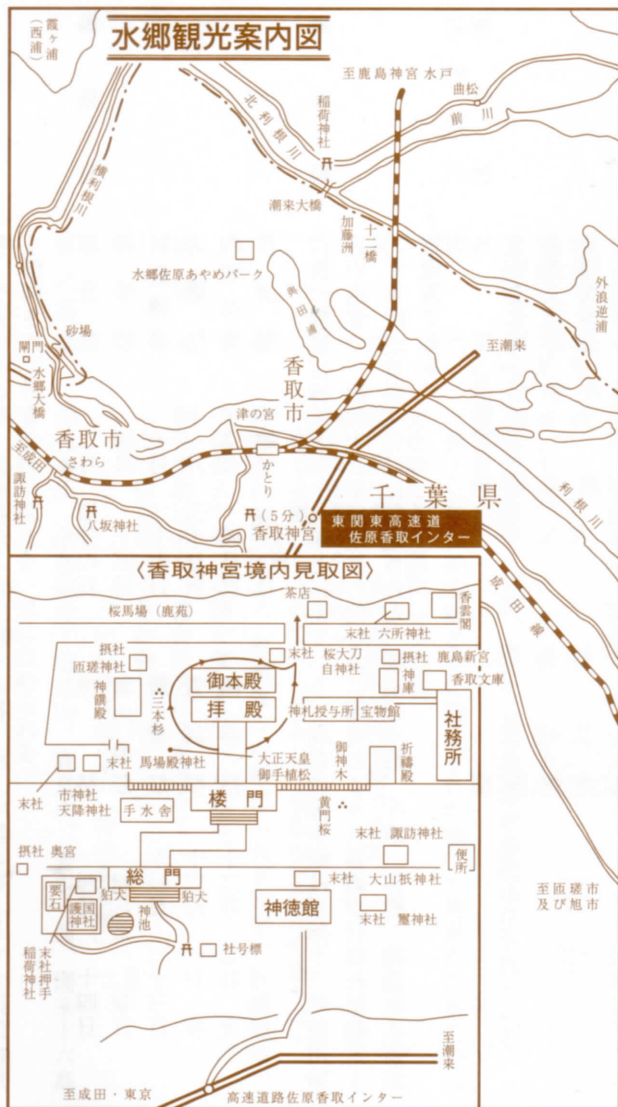
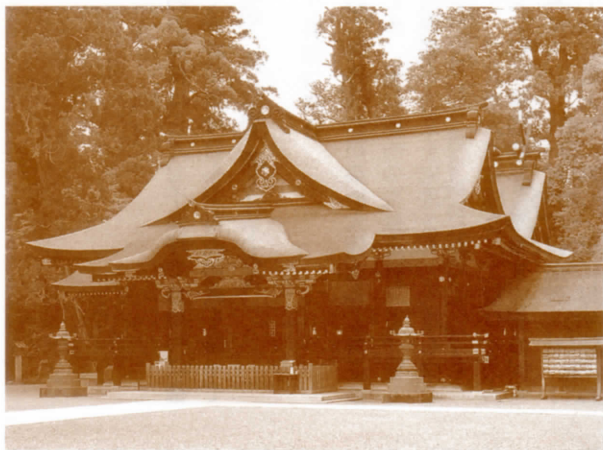


香取神宮参拝の葉



参拝順路

- 東関東自動車道 佐原・香取インターすぐ
 - 東京駅八重洲南口より高速バスの便あり(約一時間二十分)
 - 東京→千葉、成田線 佐原駅下車……バスの便あり(約十分)
- (東京より所要時間約二時間三十分)

神符及記念品

御神符 一〇、〇〇〇円以上

御神符(初穂料) 一、〇〇〇円以上 御守(初穂料) 五〇〇円以上

香取曆 三〇〇円 交通安全御守 一、〇〇〇円以上

破魔矢 一、〇〇〇円

祈禱及正式参拝

祈禱料 五、〇〇〇円以上

団体昇殿参拝 二〇、〇〇〇円以上

個人・団体を問わず受付へ申込み、境内、及 宝物案内、正式参拝、等
便宜御取計い致します。

宝物拝観

拝観料個人(中学生以上)一人三〇〇円。団体(三十名以上)一人二〇〇円。
学生小人は一〇〇円。団体五〇円。

御神楽奉奏

奉奏初穂料二万円以上、但予め社務所へ御申込の場合に限る。

神前結婚式

特に厳肅を旨として執り行います。衣裳・美容・写真撮影等、御相談に応じます。

附属崇敬団体

崇敬会、護国神社講、日供講等。

詳細は社務所に御問合せ願います。

〒二八七〇〇一七

千葉県香取市香取一、六九七番地

香取神宮社務所

電話 〇四七八(五七)三三二一番(代)
FAX 〇四七八(五七)三三二四番

香取神宮参拝の葉

鎮座地 千葉県香取市香取が御鎮座地である。境内の面積は三万七千余坪で他境外に攝末社が多数ある。神域内は老杉鬱蒼として森蔽の気は自ら千古の由緒を語っている。後苑桜馬場よりの眺望は水郷の風光が一瞬に集り頗る佳である。

御祭神 フタシノヤマト 経津主大神（又の御名伊波比主大神）

御事歴 大神は皇祖の神々の御神意を体して鹿島の大神と共に出雲の大国主命と御交渉の結果、円満裡に国土を皇孫に捧げ奉らしめ、更に国内の荒振る神々を平定して、日本建国の基を御築きになり、又東国開拓の大業を完遂されて天皇を中心とする我が国体の確立に大きな御功績を著わされた。

御神徳 国家鎮護の神、皇護守護の神として、古来皇室の御崇敬厚く奉幣使の御参向もしばしば行われた。上古より「神宮」と称せられ、古い社格では名神大社、下総国一之宮で、明治以後の神社制度に於ては官幣大社に列し、更に毎年陛下の御幣帛の供進があり、六年毎に勅使御参向の勅祭社に指定されて今日に至っている。又一般には東国開拓の大業を崇め奉って国運開発の神、武道（勝運）の神、交通安全の神、民業指導（農工業）の神、海上守護の神として全国的に深く信仰されて居る。

御祭日	節分祭	二月 節分の日	例祭	四月 十四日
神幸祭	四月 十五日	御田植祭	四月第一土曜日	
新飯神事	十月 十七日	新嘗祭	十一月 二十三日	
大饗祭	十一月 三十日夜	賀詞祭	十二月 一日 夜	
内陣神楽	十二月 四日夜	団碁祭	十二月 七日 夜	
月次祭	毎月 十四日			

御社殿 宮柱の創建は神武天皇十八年と伝えている。現在の御本殿は元禄十三年徳川綱吉の造営で、昭和十五年拝殿其の他と共に国費により大修繕が行はれ昭和五十二年本殿が重要文化財に指定された。構造は本殿、中殿、拝殿、相連れる所謂権現造である。

御宝物	国宝	海獸葡萄鏡	一面
	重要文化財	双竜文鏡	一面
	重要文化財	狛 犬	一對
	重要美術品	小 宮	二点
	重要美術品	櫛	二点
	県指定文化財	御田植祭用古面	三面
	県指定文化財	龜山天皇御勅額	一面
	明治天皇御奉納	御太刀	一口
	神代盾	二面	
	県指定文化財	香取神宮古文書	約千点
	其の他、刀剣、古鏡、鴛鴦篋、行器、櫛篋、古文書等	が多数保存されている。	

境内案内 楼門 元禄十三年に御本殿と共に建造された楼門で均斉のとれた姿は御社殿とよく調和している。

黄門 桜 楼門前にあり、水戸光圀卿の御手植である。
徳川斉昭卿之を詠みて

三本杉 「恵ある風にしられていちじるし 香取の宮の花の盛りは」
神饌殿の側にあり、源頼義この杉に「天下太平、社頭御栄、子孫長久」の三祈願をせしと伝へられる。
御神木 御札所前にあり、落合直文氏之を詠みて
「このめぐりいくさかありと四人して
いだけど足らず 神のふる杉」

桜ノ馬場 神苑裏山、景勝絶佳、筑波山、鹿島山、香取ヶ浦、潮来十六島等水郷の風光を一望に収められる。
桜樹数百本、花の名所として知られている。

香雲閣 大正天皇始め各皇族御参拝の砌、御休憩の由緒ある当神宮附属建物である。

要石 往古尚この地方ただよへる国にして地震多きが故に国家鎮護の為、香取鹿島の大神この石を鎮めたと伝へられる。

宝物館 香取神宮宝物館は昭和四十一年式年大祭を記念して建設されたものである。国宝・重文を始め宝物多数を陳列公開している。

参拝の作法

- 一、先ず手水を使って手を清め、口をすすいで神前に進む
- 二、心身を正し拝礼する
この作法、二拝、二拍手、一拝
- 三、玉串料、賽物等は拝礼に先だち奉獻する
- 四、祈願の詞、参拝詞等は拝礼に際して奏上する
参拝詞（略拝詞）
祓へ給へ 清め給へ
守り給へ 幸へ給へ